

# 元気 いっぱい!



## 出合小学校 6年1組

出合小学校で、この春に卒業をむかえる6年生は34人。その34人が共に学ぶ6年1組は、とても仲の良い元気いっぱいのクラスです。合言葉は『感動の一年 ～元気・楽しさ・夢～』。

そんな6年1組が今年の10月からコツコツ取り組んできたものが、卒業制作の『木彫りの校歌』。正方形の木片に1文字ずつ彫刻刀で文字を彫り、それらを組み合わせて作っていきます。卒業を間近にひかえた今、画数の多い文字や複雑な形の文字に苦戦しながら続けてきたこの作業も、そろそろ大詰めをむかえています。文字を彫ったり、やすりをかけたりと完成に向け、作業にも一層熱が入ります。「できあがった作品が卒業してもずっと学校に飾られると思うとうれしいな」と話してくれたのは川崎真依さん。6年1組の『感動の一年』を締めくくるにふさわしい、思い出いっぱいの卒業制作になるといいですね。



▲木彫りの文字を両手にする6年1組のみなさん



▲彫刻刀で1文字ずつ掘り込んでいくのは根気のいる作業。作品の完成にはクラス全員の協力が必要なのです。

昨年10月に結成された社会人野球チーム『山口きららマウントG』— 総監督を歌手の山本譲二さん、監督を元西鉄ライオンズの池永正明さんが務めるということで、全国的にも注目されています。高い技術をもった精鋭15人でチームは構成されますが、その中に市内在住の中村瑞恵さんが女性でただ一人選ばれ、男性に負けじとレギュラー目指して奮闘しています。

中村さんは、野球をしていた年上の従兄弟の影響でスポーツ少年団『埴生メッツ』で野球を始め、エースピッチャーとして活躍後、女子硬式野球の名門・神村学園（鹿児島県）に進学しました。2年春の全国選抜大会と3年夏の全国大会ではサードとピッチャーの二役をこなして全国優勝するなど、輝かしい経歴の持ち主です。高校卒業後は野球から離れていましたが、チームの入団セレクションの話を聞いて“野球の虫”の血が騒ぎはじめ、100人近い応募者に混じって挑戦してみたところ、みごと15人の合格者に残りました。ブランクがあり肩をつくるのはこれからですが、「現役のところは、調子がいいとミットの狙ったところに球が入っていた」というコントロールの良さが強みです。「中学生の時も男子の中に女子一人という環境で野球をやっていたので、気後れは感じません。いつの日か試合でピッチャーマウンドにあがる日を目標にがんばります。」と意気込みを語ってくれました。

3月25日には萩本欽一さん率いる『茨城ゴールデンゴールズ』との交流試合が予定されています。「応援してくれる人たちに頑張っているところを見てもらいたい。」という中村さん。マウンド上での雄姿を早く見てみたいですね。

# 夢 いっぱい!

「自分がチームで頑張ることが、女性の野球選手増加につながるとうれしい」



「山口きららマウントG」に入団した  
中村瑞恵さん（中塚）